

下関短期大学図書館におけるラーニング・ commons の導入について

—学内研修会と学生アンケート集計報告を中心に—

高杉志緒・堀尾昇平・塩田博子・植田佐代子

The Introduction of Learning Commons at
the Shimonoseki Junior College Library
—Centered on the Report on Intramural Workshops and
Student Questionnaires—

by

Shio Takasugi, Syouhei Horio, Hiroko Shiota, and Sayoko Ueda

要旨

本稿は、平成 26（2014）年度、下関短期大学図書館においてラーニング・commonsを導入したことに関する報告である。近年、文部科学省の学術分科会より大学図書館の整備に関して審議まとめが出され（平成 22 年「大学図書館の整備について（審議まとめ）—変革する大学にあって求められる大学図書館像—」、平成 25 年「学修環境充実のための学術情報基盤の整備について（審議まとめ）」）、各大学でラーニング・commons及び学修環境の充実が図られている。この動向に基づき下関短期大学図書委員会では、1）図書館における学習空間の見直し、2）空間整備、3）ラーニング・commons導入前後における教員研修会の実施、4）学生アンケートによる学生動向調査・分析、以上を主軸に活動を行った。今後、栄養士・保育者（保育士・幼稚園教諭二種）の養成校として、また地域貢献できる人材養成を行う大学施設としての図書館のニーズを探り、学修空間の充実を図りたい。

キーワード：アクティブ・ラーニング、授業、インフォーマル・ラーニング、FD、
学生協働、学習支援

1 はじめに

一下関短期大学図書館におけるラーニング・コモنز導入と本稿の目的一

この10年来、世界の大学図書館においてラーニング・コモنزの導入が注目され、日本の大学においても学習支援の場として図書館への期待が高まっている¹⁾。この背景には、平成20年(2008)4月、文部科学省の中央教育審議会による「学士課程教育の構築に向けて(審議のまとめ)」に挙げられた大学への課題がある。それは「自らが立てた新たな課題を解決する能力」を中心とする学士育成の必要性であり、世界的な動向とあいまって日本の大学図書館は学生自らが進んで学び研究する場としての貢献が一層重視されるようになった。

その後、文部科学省の学術分科会より平成22年12月「大学図書館の整備について(審議まとめ)ー変革する大学にあって求められる大学図書館像ー」、平成25年(2013)8月「学修環境充実のための学術情報基盤の整備について(審議まとめ)」といった見解が相次いで出され、各大学でラーニング・コモنزをはじめとした学修環境の充実が図られている。

この動向をうけて下関短期大学図書館(以下「本学図書館」と略記)では、下関短期大学図書館委員会(以下「図書委員会」と略記)が中心となって平成26(2014)年、新たな学習空間(ラーニング・コモنز)を設けた。

本稿は以下、図書館におけるラーニング・コモنزの導入目的の設定・導入報告(2章)、学内協働活動としてのFD委員会との合同研修会(3章)、ラーニング・コモنز導入前後の学生利用アンケート結果の比較と分析(4章)、今後の課題(5章)、以上の報告を行う。

2 導入報告

2・1 導入目的の設定について

周知の通り、ラーニング・コモنزには様々な定義・側面があり、国による違いも指摘されている。山内祐平は、米国と日本の大学図書館における学習支援の位置づけの違いをふまえた上で、日本型のラーニング・コモنزのあり方について 1) 学習コミュニティの構成、2) キャリアや社会との接続、3) 教員との連携と学内プロジェクト化、4) 学習支援に関する情報交換の場、以上4つの方向から考察している²⁾。

また、文部科学省の学術分科会はラーニング・コモنزを「複数の学生が集まって、電子情報も印刷物も含めた様々な情報資源から得られる情報を用いて議論を進めていく学習スタイルを可能にする「場」を提供するもの。その際、コンピュータ設備や印刷物を提供するだけでなく、それらを使った学生の自学自習を支援する図書館職員によるサービスも提供する。」と定

義しており³⁾、学修環境の整備については「i) コンテンツ、ii) 空間整備、iii) 人的支援と3つの有機的な連携」の必要性を強調している⁴⁾。

このように、ラーニング・コモンズには多岐にわたる側面があり、各大学に応じて導入状況も異なるため、本学図書館では何を目的・主眼として導入するのか、学生ニーズや学内状況をふまえた明確な導入目的を定める必要があった。そこで、導入目的を明確化するために図書委員会は、平成25年度、以下3つの観点から活動を行った。1点目は本学図書館利用の現状把握(2・2)、2点目は他学のラーニング・コモンズ導入状況調査(2・3)、3点目は学内研修会である(2・4)。

2・2 本学図書館利用の現状把握

学生における本学図書館利用の現状把握については平成24年12月、全学生を対象とした「下関短期大学図書館の利用に関するアンケート」を行ったので、その結果を活用することとした(図1-1、図1-2)。

本学図書館の利用頻度に対して「ほとんど利用しない」と答えた学生が約6割(58%)おり、利用しない理由は上位3つを挙げると、「利用する時間がない」32%、「借りたい本がない」32%、「行くのが面倒」23%であった。利用目的に対しては「授業課題のため」と答えた学生が約7割(67%)であった。アンケート結果より、学生は「利用する時間がない」すなわち「毎日忙しい」と感じており、授業・課題等で必要に迫られなければ本学図書館に行かないという現状が明らかとなった。また、読書習慣については、1ヶ月に1冊も本を読まない学生が約半数(49%)を占め、学生の読書離れが進んでいることが明確となった。つまり読書習慣がないため「ほとんど利用しない」傾向が分析できた。

以上により、学生の利用頻度の向上を目指し、本学図書館が親しみやすい場となるよう環境改善・授業連携を行う必要があることが分かった。

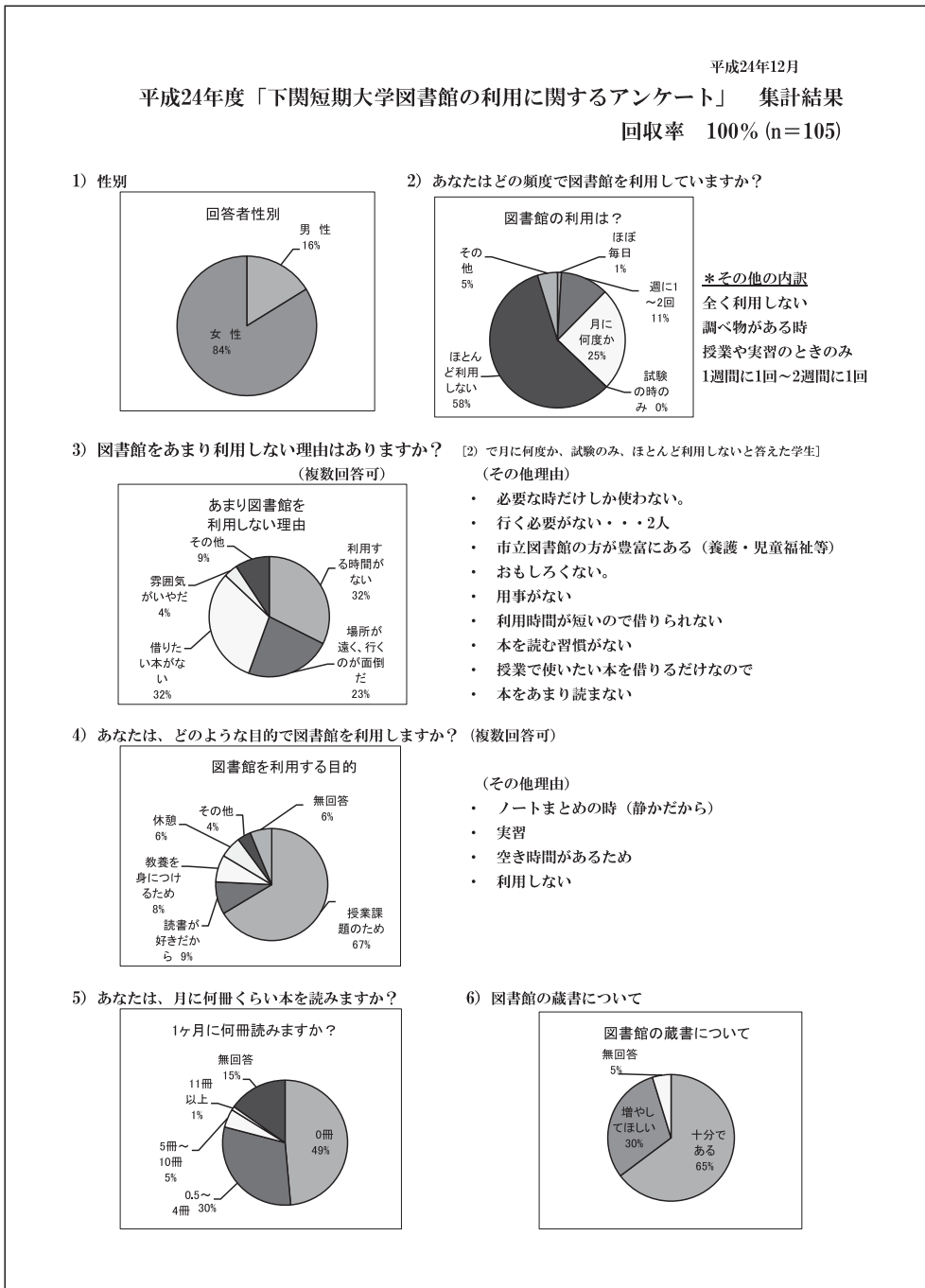


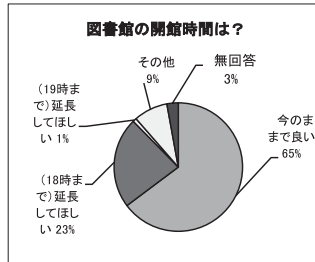
図 1-1 平成 24 年度下関短期大学図書館の利用に関するアンケート (集計結果)

6) 図書館の蔵書について(続き)

増やしてほしいと答えた方は、どのような本があったらいいと思いますか？

- ・ 全体的に古い本しかない。
- ・ 最新の保育に関する本（日誌の記入方法等、実践に役立つ本）
- ・ エプロンシアターや保育実習で活用できるような本
- ・ 指導案や日誌についての本
- ・ 福祉関係
- ・ 季節がわかりやすい絵本
- ・ 栄養・料理に関する本・・・3人
- ・ ライフステージ別の本
- ・ 小説も実用書も多ジャンルで集めてほしい
- ・ 小説を増やしてほしい（ミステリー）
- ・ 空想科学読本
- ・ 推理小説
- ・ 海外文学
- ・ 新しい専門書
- ・ 絵本や保育の新しい本
- ・ 児童家庭福祉系
- ・ 教養のために自然系等
- ・ 栄養指導実習の参考本
- ・ 社会科学分野
- ・ 伊坂幸太郎
- ・ 携帯小説
- ・ ホラー系
- ・ ホームズ
- ・ 授業に使える本
- ・ 保育に関しての本
- ・ 障害の事が載っている本
- ・ 絵本（安野光雅、五味太郎）
- ・ 養護・児童福祉
- ・ 栄養関係の本
- ・ 西尾維新（戯言シリーズ等）
- ・ 村上春樹
- ・ 上橋 菜穂子さん
- ・ 乙一さん
- ・ 雑誌

7) 図書館の開館時間（現在は平日9時～17時）について



(その他の理由)

- 8時30分位に開館・・・3人
- 8時30分～18時・・・2人
- 8時すぎから開館・・・1人
- 8時40分位に開館・・・1人
- 8時30分～17時30分・・・1人
- 8時～18時・・・1人

8) その他、ご要望・ご意見等があれば、ご記入下さい。

- ・ 毎月、図書館からの新刊便りやリクエスト募集をやれば良いと思う。
- ・ 満足です。
- ・ 本を読む場所が欲しい。・・・2人
- ・ 荷物をロッカーに入れる意味・・・2人
- ・ 毎日8時～18時開館というのは難しいと思いますが、週に1度だけでも考えていただくと嬉しいです。
- ・ いつもありがとうございます。また、よろしくお願い致します。
- ・ 授業が9時からだから、少しでも早くあけてほしい。
- ・ いつもありがとうございます。
- ・ これからも頑張って下さい。
- ・ 職員の優しい対応がとて素晴らしいです!! 感謝しています!!!

図1-2 平成24年度下関短期大学図書館の利用に関するアンケート（集計結果）

2・3 他学におけるラーニング・コモンズ導入状況調査

他学における導入状況調査については、1) ラーニング・コモンズの導入報告（各大学図書館のホームページ紹介・論文等）の調査、2) 第99回全国図書館大会における「図書館の学修支援を考える」（第2分科会大学・短大・高専図書館、平成25年11月22日開催、於アクロス博多）受講、3) 導入大学図書館の見学（九州大学・山口大学・梅光学院大学）、以上を行った。概要は以下の通りである。

1) ラーニング・コモنز導入報告の調査

各大学のホームページ画面や論文紙面によって、ラーニング・コモنزの導入理念、定義、大学図書館内における設置場所、レイアウト、設備等の基本的事項の情報は得られた。但し、導入後の活用状況や効果等までは分かりにくく、学生数・学科・規模等も大学によって異なるため、直接的な参考事例にはならなかった。

2) 第99回全国図書館大会 大学・短大・高専図書館分科会「図書館の学修支援を考える」受講

ラーニング・コモنز導入例や活用法、つまり環境作りと学習支援・教育実践の具体例を委員（1名）が受講した⁵⁾。

後日、参加した委員が図書委員会で配布資料紹介・事例報告を行った後、本学図書館における導入目的を検討した。その結果、ラーニング・コモنز導入目的を考える上で直接的に参考にしたのは次の3点である。

1点目は山田政寛氏（九州大学基幹研究院）の基調発表「これからの人材育成における大学図書館の役割：学習支援を中心に」における大学図書館に対する基本的な考え方である。それは、大学図書館をアクティブ・ラーニングの要素（空間・学修手段・人的リソース）が揃った機関と捉え、「フォーマル・ラーニング（授業）との接続」、「インフォーマルラーニング（授業外学修）への支援」、「リテラシー再教育等の場」としての活動展開の可能性を指摘していることである。

2点目は矢崎美香氏（九州女子大学・短期大学附属図書館）の基調発表「自発的学習効果を生む学習環境づくりとその仕組み～学生の課題探究能力育成のために」におけるラーニング・コモنز導入報告例である。九州女子短期大学は、平成23年度より子ども健康学科（1学科構成）を主体にしており、免許・資格取得が主となる講義が多い点や「あまり図書館を利用しない」、「情報検索がうまくできない」という問題が重視されていた点が本学と共通していた。九州女子大学・短期大学附属図書館が行った解決策は、1）図書館情報リテラシー教育（継続的な支援、教員との連携）、2）アクティブ・ラーニングの導入、3）環境整備（私立大学教育研究活性化設備整備事業による「学生目線による図書館設備の充実とアクティブ・ラーニングの展開」採択事業）という事項であった。その他にも「大学が小規模であるため、学生の顔を覚えやすく個々に対応しやすい・学習傾向を掴みやすい・教員との距離も近い・学生対応や進め方など連携も図りやすい、以上の特色を生かして継続的に改善に取り組むことが必要であり、学生の探求心をくすぐる企画が必要と考えている」という大学の規模を生かした改善姿勢は、大変参考になった。

3点目は、位田絵美氏（近畿大学産業理工学部、前北九州工業高等専門学校）の基調発表「理工系学生（高専生）にむけた図書館活用法」における授業時の取り組みである。理工系学

生にとって専門外の科目である「日本文学論」担当の発表者は、学生アンケートの「利用する時間がない」33%、「利用しなくても支障がない」29%という回答をふまえた上で、あえて『源氏物語』を授業教材として選択。『源氏物語』に対して興味・関心を持てる導入を行った後、授業時に図書館で調査せざるをえない場、すなわち情報検索・個別発表時間を設け、図書館におけるアクティブ・ラーニングを試みた授業展開を発表した。先にふれたように本学で平成24年度に実施したアンケートでも（2・2）、本学図書館を利用しない理由について、「利用する時間がない」32%、「行くのが面倒」23%、と答えている（図1-1）。従って、位田氏の発表を参考に本学でも「授業時に図書館で調査せざるをえない場」を設定し「敷居の高さを取り払う」活動の必要性を分析できた。

3) ラーニング・コモンズ導入大学図書館見学

委員は、九州大学附属図書館・山口大学図書館・梅光学院大学図書館の施設見学を行ったが、最も参考としたのは梅光学院大学図書館である。

梅光学院大学図書館への見学は、平成26年2月10日、図書委員（教員1名）・司書（1名）だけでなく、学生2名と実施した。参加学生は、平成24（2012）年度から活動を開始した学友会公認部活動「ほんの倶楽部」に所属する保育学科学生（1年生・2年生各1名）である。因みに、「ほんの倶楽部」の平成25年度活動概要は、絵本購入を中心としたブックハンティング、大学祭時のポスター展示発表「お気に入り絵本の紹介」、舞台発表「絵本の読み聞かせ」、館内掲示物整備等である。

梅光学院大学図書館では、加藤邦彦館長に館内施設を案内して頂き、既存の机や設備を使いながら1階にラーニング・コモンズ、2階に個別学習スペースを設けた状況を御説明頂き、学生による「図書館サポーター」活動等を紹介して頂いた。特に参考になったのは、空間整備と学生協働の2点である。空間整備については、新規に机・椅子等の備品を購入するのではなく既存の机を移動させて模様替えを行い、ラーニング・コモンズと個別学習空間を階ごとに分けた点が参考になった。後者の学生協働図書館サポーターの活動については、1) 学生作成の図書館キャラクターを活用した施設内掲示・案内等の作成、2) 学生による図書館資料整理・配架のプランニング提案といった「学生と共に作る図書館」という活動姿勢から刺激を受けた。

参加学生2名が最も興味を持ったのは、1階入口奥すなわちラーニング・コモンズの近くに「絵本コーナー」があることであった。本学図書館は従来、1階駐車場、2階研修室、3階受付・閲覧室・書庫、4階絵本コーナー・閲覧室・書庫という構成で、保育学科学生がよく使用する絵本類は4階に配架してあったためである（図2）。そのため参加学生は見学後、「図書館内で利用しやすい場所に貸出率の高い資料を配架することによって『図書館に行くのが面倒』と感じる学生への対策につながる」ことを引率教員に指摘した。このように参加学生は他学における「図書館サポーター」活動の実地見聞によって、本学図書館の活動における「学生協働」

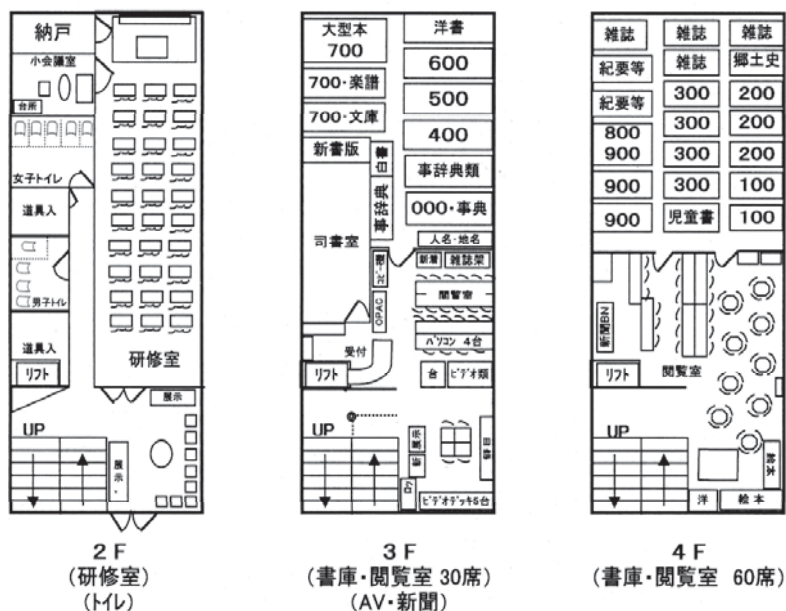


図2 ラーニング・コモンズ導入前の本学図書館2階～4階見取り図

の可能性、即ち「利用者である自分たちが図書館運営の一翼を担える」楽しさも理解できたようであった。

2・4 導入前における学内研修会について

2・4・1 導入前学内研修会開催目的

平成25年度に行った本学図書館利用の現状把握(2・2)、他学におけるラーニング・コモンズ導入状況調査(2・3)に基づき、図書委員会は平成26年度からラーニング・コモンズ導入を行うこととした。26年度の導入を目指した一因には、同年度後期期間中(9月～3月)における校舎(2号館・3号館)の耐震工事がある。工事期間中は講義室(1室)・演習室(1室)・実習室(2室)・実験室(1室)等を含めた施設が使用出来ないため、講義・演習・自習を含めた学習空間の確保が喫緊の課題となっていた。

また、他学の状況調査によって(2・3)、本学図書館におけるラーニング・コモンズの導入にあたり、1)本学の理念「温雅礼節」(礼節とコミュニケーションの重視)を基礎とする、2)「教職員と学生の距離の近さ」を生かす、3)「フォーマル・ラーニング(授業)との接続」、 「インフォーマルラーニング(授業外学修)への支援」を行う、4)「授業時に図書館で調査せざるをえない場」を設定する、5)「敷居の高さを取り払う」全学的活動の必要性、以上5つの具体的な指針を認識した。

そこで、平成26年度からの導入・授業導入にあたり、「5）全学的活動」を推進するため、平成25年度末に図書委員会が主体となって教員に対する研修会を行うこととなった。研修会の目的は、1）教員に対して図書館利用への意識を高める、2）ラーニング・コモンズ導入に対する意見を募り学内の統一見解を図る、以上である。

2・4・2 臨時学内研修会実施概要

平成26年3月12日（水）、教員を対象として「次年度耐震工事に伴う図書館の利用について」と題して臨時研修会を行った（場所：下関短期大学図書館研修室、企画：図書委員会）。

学内の都合で、研修会に与えられた時間は1時間であったため、図書委員3名の報告発表とアンケート用紙配布にしぼった。発表内容を決定するにあたり、1）栄養健康学科・保育学科の2学科双方に役立つ内容であること、2）（4年制大学の事例報告を行う場合でも）短期大学にあった事例を盛り込む、3）授業では栄養士・保育士・幼稚園教諭といった免許・資格取得のための必修科目が多いこと、以上に留意した。その結果、報告発表の主旨は、（1）他学および学内における授業連携事例報告（発表者：堀尾昇平）、（2）他学におけるラーニング・コモンズ導入状況調査報告（発表者：高杉志緒）、（3）本学における授業時における図書館利用報告（発表者：塩田博子）、以上となった。次に3名の報告発表の概要を報告する。

（1）堀尾昇平「平成25年度ML（ミュージアム・ライブラリー）連携報告」

本学図書館が「山口県大学ML連携特別展」（平成25年度参加館：山口県内9大学12館の博物館・図書館、展示期間：10月～1月の各校決定期間、内容：共通テーマ「再生」に基づき各館が学術資料を展示）に参加した概要報告（本学展示期間は10月21日～12月20日）。展示担当教員（堀尾）が展示テーマ「赤間関硯一伝統技術の再生と未来への意匠一」に沿って展示内容・意図を説明した後、展示を通じた学内授業活動・学外連携活動（11月13日梅光学院大学学生約20名・担当教員1名による展示見学等）を報告し、図書館における授業連携と県内大学連携行事を通じた「インフォーマルラーニング（授業外学修）への支援」の可能性を示唆した。

（2）高杉志緒「ラーニング・コモンズについて—大学図書館における学習スペースと授業連携—」

学生だけでなく教員間でも本学図書館の利用度・関心度に差があるため、図書館への関心を高め、他学におけるラーニング・コモンズ導入の現状理解を深めることを目的とした報告発表。概要は、①大学教育と大学図書館に求められるニーズ（社会的動向の確認）、②「ラーニング・コモンズ」とは？—他学の導入例—、③本学が可能な取り組み（案）について、以上である。特に③については、i）空間整備、ii）人的支援、2つの側面から具体案 i）図書館3階にラーニング・コモンズを導入する、ii）図書館と授業連携の推進、図書館内での学生グループ活動

推進を提示した。

(3) 塩田博子「栄養健康学科授業における図書館利用について」

本学図書館施設を使った授業実践の報告。発表者が指導している「フードスペシャリスト論」における本学図書館利用授業の概要を説明した。授業の手順は、①資料を通じた情報収集（調査手順の指定有：冊子媒体で調査後、パソコン・電子資料の使用可）、②レポート作成指導、③学生による個別口頭発表、以上である。授業後の学生の反応について、「ここまで詳しく一つの事柄について調べたことは初めてだった」、「図書館の利用方法が分かった」、「探せば本はあることが分かった」、「もっと調べたくなった」等の感想が寄せられたため、本学図書館を活用した調査学習は、学生の学習意欲促進に繋がったと報告した。総括として、①図書館における目的ある選書の必要性、②授業と授業外学修の接続強化の重要性、③グループ学習におけるラーニング・コモنز導入の必要性、④レファレンス・リクエスト活用と本学図書館利用の促進、以上を提案した。なお、「レファレンス・リクエスト」については後述する。

2・4・3 臨時学内研修会教員アンケート結果

上記3名の報告・発表の後、参加教員に対してアンケート用紙を配布した。質問事項は「図書館の設備・利用法・授業連携等につきまして、ご意見をご記入下さい」という項目のみで回答は自由記述とした。参加教員12名中、8名が回答した結果を内容別に集計すると以下の通りである。

【研修会全般】

- ・意義ある研修会だった。とても勉強になった（3名）。
- ・図書館は静かに勉強するところ、というこれまでの概念が払拭された。全国的な流れがあり、他大学は既に取り組んでいることなど、今日の研修会を通じて知ることができ意識改革できた。

【開館時間・日数の延長】

- ・授業前後は閉館時間で長期休業中も開いていないので、このままでは益々学生が来なくなる。

【ラーニング・コモنزに対して】

- ・本学図書館が、学習空間・人的支援の提供の場として生まれ変わることに賛成である。
- ・本学図書館が色々な学習スタイルを可能にしてくれる場となれば、学生の学習意欲も増すと思う。
- ・調査・話し合い・発表リハーサル等、便利に使えるスペースとなって欲しい。
- ・ノートパソコン（またはタブレット端末）の貸し出しを行って欲しい。
- ・スクリーンが欲しい（パワーポイント映写用）。
- ・オーディオ・CD・楽譜を今のまま3階に置ける場合はアクティブラーニングを計画したい。

- ・九州工業大学情報工学部の MILAiS（未来型インタラクティブ学習空間としてグループワーク型授業に向けた教室）は魅力的と聞いたので、参考にして欲しい。

【施設・設備全般】

- ・ロビーに映像モニター設置（学園の沿革・河野タカ先生の映像など）してはどうか？
- ・古本リサイクルコーナーが欲しい。
- ・保育実習等で必要な「指導案」作成の為の参考資料（「指導案」の作成方法、「設定保育」や「遊び」の参考例等）をもっと豊富に揃えて欲しい。
- ・本学図書館外で学生の見やすい所に大きく参考図書・新着図書の紹介を掲示して欲しい。
- ・カフェスペースが欲しい。ペットボトル持ち込み可能ならば、本学図書館にも飲み物の販売機が必要。
- ・飲食しながらインターネットや読書ができるスペースが欲しい。
- ・学生の居心地が良い環境にすべき。清掃・冷暖房が徹底し、おしゃれなインテリアがあると良い。
- ・屋上に太陽光発電を設置すると学生も環境に対して興味が持てるのではないか。

【イベントの開催について】

- ・ラーニング・コモンズを使ったイベントとして大学祭などでビブリオバトルを行うのも面白い。
- ・子ども達を招き、学生による「読み聞かせの会」を開くのも面白いのではないか。

【授業連携・改善】

- ・（今回の研修は）開催時期として、新学期前で授業改善にも役立つと感じた。
- ・自主的な学生の育成のため、「考える力」を付ける学習方法を取り入れることは大切。
- ・学生の自主性を伸ばし、「考える力」を身に付ける学習方法を取り入れた授業改善をしたいが、具体的な方法の研修会などを開催して欲しい。

以上のアンケート回答を概観すると、ラーニング・コモンズは資料調査・話し合い・発表リハーサルなど様々な学習スタイルが可能な場として参加教員に認知されたことが分かった。また、参加教員は、本学図書館のラーニング・コモンズ導入に概ね賛成であることも明らかとなった。また、図書委員会は授業（実習・演習）の改善と併せて図書館運営を進める必要があることも分かった。なお、教員アンケートの集計結果は、情報を共有するために参加教員全員に後日、紙面で配布した。

2・5 本学のラーニング・コモンズ導入目的

平成 25 年度の図書委員会活動から導き出した本学図書館におけるラーニング・コモンズの

トボトル等、きちんと蓋が閉まるもの) 持ち込みは可。

なお、学生へのラーニング・コモンズ導入の通知は、新年度のガイダンスおよび「図書館報」(図書館外の学内9か所にも掲示、不定期発行)にて行った(図4)。

3 導入後の学内研修等について

平成26年4月、本学図書館はラーニング・コモンズを導入したが、導入の経緯を知らない新任教員・非常勤講師等への紹介および「授業との接続」の促進を目的に、図書委員会で「レファレンス・リクエストの活用促進」、「FD委員会との合同研修会開催」を企画した。

下関短期大学図書館報

下関短期大学図書館
平成26(2014)年5月

「ラーニング・コモンズ」誕生!

下関短期大学図書館
平成26(2014)年5月

本学図書館に今春、新たな空間が誕生しました!

その名は「ラーニング・コモンズ」。コモンズとは「共有の場所」という意味です。ラーニングコモンズは、「知識を求め、学生が集まり、気軽に話し合いながら考える場所」なのです。今まで図書館は静かな場所でしたが、4月から3階で「グループ学習」ができるようになりました。

1年生の皆さん、授業課題を一人で抱え込まず友達とパソコンや本を使い話し合ってみませんか?

2年生の皆さん、新しい「ラーニングコモンズ」は如何ですか?
また、今年から山口新聞だけでなく、読売新聞も読めます!
ゼミナール活動、課題学習、指導案作成など、同級生なら誰でも抱えている課題をグループで話し合ってみると、また別の考え方が出来るかもしれません。
就職試験にも「グループ討論面接」導入企業がありますので、就職活動にも役立つはずです。

また、今まで通り、静かに自習勉強・読書をしたい場合は、4階の自習室をご利用下さい。

本や調べものことで質問があれば、いつでも気軽に声を掛けて下さい!
「図書館に行きたい!」と思ってもらえる場所を目指して図書館3階カウンターでお待ちしております。
(下関短期大学図書館 植田佐代子、柳井文代)



(写真左)円卓を囲んで、グループ学習が可能です
(蓋ができるペットボトル飲料なら持ち込み可能です)



(写真右)4階にあった絵本コーナーも移動しました
ラーニングコモンズで読み聞かせの練習もできます!

「ほんのクラブ」です!

(保育学科2年 田中順子)



子どもたちって絵本が大好きですよ! わたしたち学友会公認「ほんのクラブ」は、子どもたちの「絵本って楽しい!」が、ふくらむことを目標に日頃から活動を行っています。

昨年度は活動予算で絵本を購入し、37冊の絵本を図書館に配架しました。

4月、館内掲示紹介した『おおきくなるっていいことは』も、わたしたちが選んだ一冊です(写真参照)。

本文には「おおきくなるっていいことは、なんでもかんでもたべたい!」ってこと!という文が出てきます。

栄養健康学科の皆さんは、どう感じますか?

その他「食育」を主題にした絵本もあります。

皆さん、色々な絵本を読んで楽しみましょう!

絵本と親しみ、沢山「心のポケット」を作って下さいね!

図4 下関短期大学図書館報(平成26年5月発行)

3・1 レファレンス・リクエストの利用促進

本学図書館と学内授業連携の試みは、ラーニング・コモンズ導入以前から行ってきた。具体例として、平成18(2006)年度、図書委員会では「レファレンス・リクエスト」用紙を作成して3月度教授会で教員に用紙を配布・説明した。「レファレンス・リクエスト」は、学生が授業・実習等を通じて直接的(授業時の本学図書館使用等)あるいは間接的(学生課題レポート作成等)に本学図書館設備・資料を利用する場合、事前に教員と図書館が連携を行う目的で作成したコミュニケーション・ツールである。教員記入欄だけでなく司書の回答欄も設け、教員と本学図書館が意志疎通を図れるよう工夫した(図5-1~図5-3)。本学図書館への提出方法は、紙面・Eメール、どちらでも可能にしている。

但し、最初の説明・配布から既に7年が経過して利用する教員に偏りがみられるため、1)ラーニング・コモンズ利用の促進、2)平成26年度新任者・非常勤講師への紹介、以上を目的として平成26年4月、ラーニング・コモンズ導入後に再度、配布して教授会でも紹介を行った。

レファレンス・リクエストについて 平成19年3月

平素は短大図書館をご利用頂きましてありがとうございます。
短大図書館は、教育と研究に必要な資料・情報を収集し、これを有効に提供するとともに適切なサービスを行うことにより、大学の教育目標の達成に寄与することを目的とする機関です。現代必要とされる教育は知識の量の拡大ではなく「課題探求能力」と言われています。つまり従来の講義中心の注入型教育ではなく、図書館が常に提唱し続けてきた「多様な情報源を活用しつつ、自ら学び、自ら考える力を育成する教育」です。大学の質は利用者がどの程度、自立して主体的に図書館を活用しているかで図れるとまで言われています。下関短期大学図書館もまた先生方とともに講義を支える柱となり学生たちが自館を自由に使いこなせる技術を習得していただけるように、あらゆる場で支援していきたいと思っております。レファレンス・リクエストはその一つで、授業の内容や流れに沿って図書館を活用して頂くための情報交換の場としてお使い下さい。

◎ 講義内容が決まり、図書館をご利用になるご計画がありましたらできるだけ早くに図書館にご相談下さい。事前準備に時間を必要とします。
(資料の確認や新たな資料収集のための利用の2週間位前にお知らせ頂きますと助かります。)

◎ レファレンス・リクエスト用紙はネットワークコンピュータの「Evo1共有情報」の中の「図書館管理」に入っております。
用紙を「図書館管理」からご入手の上、図書館の方にメールで送信して下さい結構です。
当方より図書館の情報(回答)を書き込み、返信致します。

◎ 申込みにインターネットをご利用でない方、あるいは非常勤の方は紙面にも受け付けております。
学生部と非常勤室に用意しておりますので、必要事項をご記入のうえ**井上**のメールボックスに入れるか、図書館までお持ち頂き、直接ご提出下さい。

★ 申込み用紙のご記入は参考例をご覧ください。
ご自分で用意されたものがございましたら、それを添付されても結構です。

レファレンス・リクエストは、授業の流れに沿って必要な資料を事前に揃え閲覧室等における机や椅子をグループ学習など形態に合わせご利用頂き資料探しやアドバイス(レファレンス)等をスムーズに行えるようにするために必要な情報と交換しあうものです。お気軽にご相談下さい。

下関短期大学図書館 (内線480)

主な記入事項：**【表面】** 講義名・担当教員・利用人数(グループ、個別)・利用方法(授業時間内のみ、開館時間内)・利用日及び利用期間(提出締切日、発表日)・提出形態(レポート提出、作文提出、個別発表、グループ発表)・内容(題目、発表内容等)・キーワード・基礎文献名・貸し出しの有無・自由記述(教員欄、司書欄)、**【裏面】** 内容・進め方・作業の流れ

図 5-1 「レファレンス・リクエスト」説明用紙

レファレンス・リクエスト申込み用紙 (例) 注:ゴチャは教員の書き込み、明朝は図書館側の回答

| | | | |
|---------------|---|------|-----|
| 受付日 | / / | 受付番号 | RR- |
| 講義名 | 調理学実習1 | | |
| 担当教員名 | 塩田 博子 | | |
| 図書館利用日及び期間 | 平成19年 4月 27日 (金)曜日 校時 ~ 平成19年 5月 10日 (水)曜日 校時 | | |
| 利用人数 | グループ (5)人 (6)班 / 個別 | | |
| ※ 座席数 | 3F: 角卓(24席) 4F: 角卓(17席)、円卓7台各4席(28席) | | |
| 利用方法 | 授業時間内のみ <input type="checkbox"/> 開館時間内 <input checked="" type="checkbox"/> | | |
| 利用内容(全体テーマ) | 和風のだし汁の種類と特徴、その利用方法についてまとめ、その中のだし汁を利用した汁物や煮物などのレシピを二品書きなさい。 | | |
| 項目(課題例)(小テーマ) | ・だし汁の種類と特徴 ・日本料理の種類とだし汁の使い方 ・だし汁を利用した日本料理のレシピ | | |
| キーワード | 昆布・かつお・いりこ・貝類・しいたけ・アミノ酸・核酸 うま味成分・混合だし・グルタミン酸・イノシン酸・コハク酸 汁物・煮物・煮出し・和食物 | | |
| 提出形態 | レポート提出 <input checked="" type="checkbox"/> 作文提出 <input type="checkbox"/> 個別発表 <input type="checkbox"/> グループ発表 <input type="checkbox"/> | | |
| 提出締切日 | 平成19年 5月 11日 (木)曜日 | | |
| 発表日 | 平成19年 5月 11日 (木)曜日 | | |
| 資料貸出の有無 | 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> | | |
| 参考資料名 | ◎「調理のためのベーシックデータ」女子栄養大学出版部2007⇒3階展示コーナー ◎「コトと科学の調理事典」医歯薬出版2006 ◎「日本料理技法全7巻」講談社1982 ◎「日本料理行事・仕来り大事典 用語編・実用編」JDS社2003⇒3階事務用 ◎「全書日本の食文化」雄山閣1999⇒ 4階383 ◎「うま味調味料の知識」書房1992 ⇒ 3階688.7 | | |
| 自由記述(要望) | ・レポート用紙は5/11の講義中に各班に配布します。 ・レシピの課題が含まれている為、和風のレシピ集を各班2~3冊貸出できるように用意して下さい。 | | |
| 回答(図書館) | 参考資料の種別はこの印の通りです。(◎事辞典、○一般書、●雑誌) 各階の後の数字は分類番号です。 (383は衣食住の習俗、 688.7は食品工業の香辛料) 「一品料理献立集」「決定版家庭料理」「物販置きょうの料理」 「四季の家庭料理集」などもあります。 ●関連雑誌は「食の科学」「きょうの料理」「栄養と料理」があります。 雑誌は昨年度の1年分は3階雑誌架の中、最新はビジョンボックスの表にバックナンバーは4階奥にあります。 | | |

《 内容 》

《 進め方 》

- 1.
- 2.
- 3.
- 4.
- 5.
- 6.
- 7.
- 8.
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

《 作業の流れ 》

- (1)
- (2)
- (3)
- (4)
- (5)
- (6)
- (7)
- (8)
- (9)
- (10)
- (11)
- (12)
- (13)
- (14)
- (15)

図 5-2 「レファレンス・リクエスト」用紙(表面記入例)

図 5-3 「レファレンス・リクエスト」用紙(裏面)

3・2 平成26年度FD委員会・図書委員会合同研修会

研修会開催は、本学図書館のラーニング・コモンズの主要な導入目的である学習支援・「授業との接続（教員との連携）」を推進するためだけでなく、平成25年度3月研修会参加教員によるアンケート回答「授業改善をしたいが、具体的な方法の研修会などを開催して欲しい」という要望に応えることを主眼とした。

その結果、図書委員会単独ではなくFD委員会と合同で、平成26年6月11日、常勤教員を対象とした学内研修会を行った（FD：Faculty Development、FD委員会：大学教員の教育実践能力を高めるための委員会）。実施にあたっては、開催前月の教授会（5月21日）で研修会開催の案内を行った。以下に研修会の開催目的・概要を報告する。

3・2・1 研修会の開催目的

FD委員会と図書委員会が合同研修会を開催するにあたり、各々の委員会および合同で会議を開催した結果、1) FDの観点、2) ラーニング・コモンズ活用促進の観点、双方から出した開催目的を提案した。それは、1) アクティブ・ラーニングの実践を通じて各自の授業展開の改善に役立てる、2) ラーニング・コモンズを含めた図書館活用について実践研修を行う、という目的である。この2つの目的に基づいた研修会の内容を立案した結果、I) アクティブ・ラーニングの実践、II) ラーニング・コモンズ使用の事例発表、以上2つが骨子となった。また、研修会の終了後にアンケート用紙を配布し、研修会の感想や今後の活動について尋ねた。

3・2・2 「FD委員会・図書委員会合同研修会」の概要

平成26年6月11日、「FD委員会・図書委員会合同研修会」を行った（総司会：堀尾昇平）。概要と時間配分は以下の通りである。

I. アクティブ・ラーニングの実践（担当：FD委員会）

(1) グループワーキング：20分

教員が3名1班（合計4班）を編成し、グループワーキング（本学図書館資料の調査作業を含めたグループ学習体験）を行った。当日の調査課題は、栄養健康学科教員には「ルソーの教育論」、保育学科教員には「メタボリック・シンドローム」が与えられた。なお、「ルソーの教育論」は保育学科学生、「メタボリック・シンドローム」は栄養健康学科学生に対して、実際の授業で過去にレポート課題として出されたものである。

(2) グループ・ディスカッション及び班別発表（ディスカッション5分、発表各班1分）

各班で発表内容に対するディスカッションを5分行った後、1分ずつ調査内容、感想等を発表した。本学図書館資料に対しては「インターネットは情報が多すぎて分かりにくい面がある」、「教科書・参考書類が端的に必要な事項をまとめてあり一番参考になる」、「書架には古い本ばかり

りて雑誌が一番新しく信憑性がある」といった感想が発表された。

II. 図書館におけるラーニング・コモنزについて（担当：図書委員会、30分）

（1）事例発表「他学のラーニング・コモنزにおける教育実践状況について」（発表者：高杉志緒）

1) アクティブ・ラーニングについて、2) 大学図書館に求められる役割、3) 他大学における授業と図書館連携、以上3点についての報告説明を行い、本学における展望を述べた。1) については、平成24年8月、「中央教育審議会の答申」（教育の質的転換）において「能動的学修（アクティブ・ラーニング）」が重視されている動向を紹介。2) では、文部科学省の学術分科会より出された大学図書館の整備に関する審議まとめ（平成22年「大学図書館の整備について」、平成25年「学修環境充実のための学術情報基盤の整備について」）を説明した。3) では、平成25年11月に行われた「第99回全国図書館大会福岡大会」受講に基づき、他大学における導入事例、すなわち①九州大学附属図書館「図書館学習サポーター」導入、②北九州工業高等専門学校：図書館を利用したPBL（Problem Base Learning：問題解決型）授業の推進、を紹介した。なお、本学の展望については、授業連携・授業外学習、双方の観点から本学図書館と連携する必要性を紹介した。

（2）事例発表「本学における実践状況について」（発表者：塩田博子）

4月、ラーニング・コモنز導入後、学内授業時における利用状況の総合報告。本学図書館資料及びラーニング・コモنزを有効に使うための課題と今後の対応について提案を行った。

直近の対応・課題は次の5点である。1) 学生が使いやすいようにパソコンを手前の机から奥に配置する。2) 配架冊子の発行年数は比較的古いので雑誌を手前の部屋に配架する（新情報をすぐに提供可能にする）。3) 学生に対して事前にキーワードを複数伝える。4) ラーニング・コモنزにホワイトボードを設置すべき。5) 学生30名以上の使用は困難で必要時に机を移動せねばならない。

III. アンケート記入依頼

研修会をふまえ、FDの観点から「アクティブ・ラーニングの実践と授業改善に関するご感想等、ご自由にお書き下さい」、本学図書館利用促進の観点から「ラーニング・コモنزの活用と図書館利用促進に関する感想・要望等をお願いします」という2つの設問を記したアンケート用紙を参加教員に配布して自由記述による回答を依頼し、提出締切日を6月20日とした。

3・2・3 参加教員による感想・所感

研修会参加教員12名中9名からアンケートの回答を得た。回収後、項目・内容別に集計し

た後、「図書館利用促進に関する感想・要望」における図書委員会からのコメントを添え（下記「⇒ 図書館側から：」）、7月度教授会にて教職員に配布した。以下に該当部分を報告する。

なお、参加教員のアンケート集計結果に基づいた学内の総意を得て、後期からラーニング・commonsで使用するためのプロジェクターと白板の設置を行った。

【授業時における活用について】

- ・講義内容によっては利用可能だと思う。今後、是非、活用させてもらおうと思う。（2名）
- ・授業での活用を通じて学生に図書館を利用し、学修の楽しさを実感してもらうのが良い。
- ・研修を活かして各教員が今年度1回はラーニング・commonsを活用した授業を取り入れては？
- ・担当授業では人数が多いので活用が困難だが、レポート作成のために図書館利用を勧めたい。
- ・わかる授業を前面に出す考え方では活用が困難な面がある。
- ・まず学生が図書館の必要性を認識する必要がある。本学図書館を利用した授業によって機能を実感できる。
- ・研修後、某授業でラーニング・commonsを使用し、教員がキーワードを言いながら課題研究を進めたところ、学生から「そっか」「なる程ね」「あるじゃん」という独り言をよく耳にした。図書館に不慣れな学生には「図書館で調べなさい」というだけでは意味がないことが良く分かった。

【備品・本学図書館設備等について】

- ・開館時間の延長をして欲しい。夏季休業中であっても実習前及び中の開館を望む。
- ・蔵書が古いことは問題だと思う。特に科学系の知識は年々変わってゆく。（3名）
- ・学生が課題等を調べる時、参考書は同じ物がせめて2冊欲しい。
- ・新しい蔵書が足りない。各教員の専門の立場から最小限の図書選択をして頂いてはどうか？
- ・雑誌類も新しい情報源として（配架の）必要性を感じた。
- ・栄養健康学科に対しては、学生にも分かりやすく最新の情報が掲載された雑誌配架の必要性、保育学科に対しては、ビジュアルで楽しめる教材集がもっと欲しいと感じる。
- ・「卒業生がよく借りていた本ベスト10」などランキング展示。・図書館外の掲示板の活用。
- ・授業にそった資料（シラバスの参考図書以外の本も含む）を図書館に紹介して頂き、図書館に来れば、先生が推薦する図書がある状況にして参考図書の充実を図って欲しい。
- ・蔵書中から選書し、推薦図書を紹介文付で「教員オススメ本コーナー」を作っては？（2名）
- ・館内に「資料探しのヒント」等、分かりやすくポスター掲示がしてあると良い。
- ・メモや付箋が常備してあると便利（2名） ・色ペン、クリップボードが欲しい。
- ・パーティションがあれば、2～3組のグループ学習の同時進行も可能になるのでは？
- ・館内PCにジャンル別用語集（文科省・厚労省等）を「お気に入り」に入れ下調べを可能にする。

- ・教材研究のため、CD・楽譜をどのように活用したら良いか思案している。
- ・「図書館＝無音」という印象が強いが、相応しい音を取り入れても良いのでは？
⇒ 図書館側から：研修会の折は無音でしたが、3階で時々オルゴール音楽を流しています。

【学生・授業との兼ね合い（具体策）】

- ・館外で本を手にするスペースを学内に設置し、アピール文を掲示して来館を誘導しては？
- ・ラーニング・コモنزを使用した授業と併用して、より図書館に関心をもたせることも大切
- ・小～高校において読書習慣がなく図書館利用の経験が少ない学生が多い。
- ・利用機会を増やせるよう時間割に（空き時間等がある）余裕を持たせることも必要。
- ・調べ学習の場合、PC検索も必要だが、学生の検索能力・情報選択力の実態がよくわからない。例えば、短大の授業等で学習しているのでしょうか？
⇒ 図書館側から：1年生クラスアワー・総合科目「文献検索」にて「著作権と著作物の基礎知識」「インターネット検索（責任表示がある市役所・国の機関などはレポートにおける下調べ可）」という基本的な事項は伝えています。
- ・学生への意見聴取が必要（アンケート等）。
⇒ 図書館側から：夏休み前に図書委員会によるアンケートの実施を考えています。

4 学生アンケート

4・1 目的・質問項目の設定

図書委員会では、平成24年度に実施した学生対象「図書館利用に関するアンケート」も勘案してラーニング・コモنزの導入目標（アクティブ・ラーニング、グループ・ワーキングが可能な場の提供、学習支援・授業との円滑な接続）を設定した（2・5）。そこで、ラーニング・コモنز導入後の学生動向を調査し、今後の改善を図るために学生全員に対して紙面記入によるアンケート調査を平成26年8月に行った。質問事項については、平成24年度のアンケートの設問を踏襲し（性別・利用頻度・利用理由・利用目的・毎月の読書冊数、図書館の蔵書、その他要望）、新たな質問事項として「図書館のどの部屋をよく使うか」、「ラーニング・コモنزを授業以外で使ったことがあるか」以上2項目を加えて実施した。

4・2 アンケート集計結果

アンケートの実施方法は平成24年度と同様、クラスアワー等の時間を利用して教員が教室内で配布・記入後、全員から回収した。集計結果は以下の通りである（図6-1～図6-3）。

平成26年8月

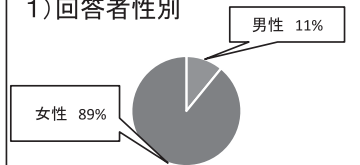
平成26年度「下関短期大学図書館の利用に関するアンケート」集計結果

回収率100% (n=101)

1) 性別・所属学科・学年に○を付けて下さい。(人)

| | 栄1 | 栄2 | 保1 | 保2 | 計 |
|----|----|----|----|----|-----|
| 男性 | 1 | 1 | 2 | 7 | 11 |
| 女性 | 15 | 16 | 36 | 23 | 90 |
| | 16 | 17 | 38 | 30 | 101 |

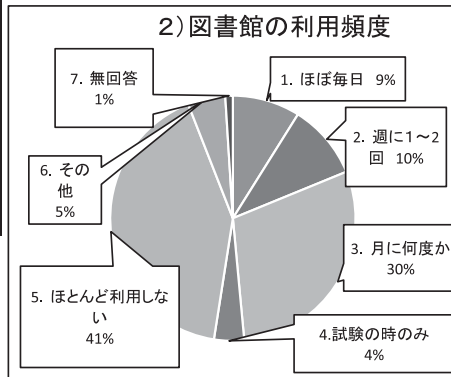
1) 回答者性別



2) あなたはどの頻度で図書館を利用していますか？(人)

| | 栄1 | 栄2 | 保1 | 保2 | 計 |
|------------|----|----|----|----|-----|
| 1. ほぼ毎日 | 0 | 0 | 0 | 9 | 9 |
| 2. 週に1~2回 | 1 | 1 | 2 | 6 | 10 |
| 3. 月に何度か | 5 | 9 | 7 | 9 | 30 |
| 4. 試験の時のみ | 0 | 0 | 4 | 0 | 4 |
| 5. 殆ど利用しない | 9 | 6 | 23 | 4 | 42 |
| 6. その他 | 1 | 0 | 2 | 2 | 5 |
| 7. 無回答 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| | 16 | 17 | 38 | 30 | 101 |

2) 図書館の利用頻度



※保1 23名「殆ど利用しない」

※栄1 9名 ”

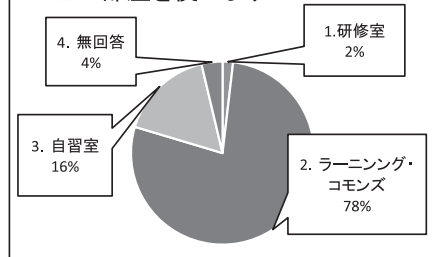
(人)

3) 2)において、1~3に○を記した学生にお尋ねします。

図書館のどの部屋をよく使いますか？(複数回答可能)

| | 栄1 | 栄2 | 保1 | 保2 | 計 |
|---------------|----|----|----|----|----|
| 1. 研修室 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| 2. ラーニング・コモンズ | 2 | 8 | 9 | 23 | 42 |
| 3. (階上の)自習室 | 4 | 0 | 1 | 4 | 9 |
| 4. 無回答 | | 2 | | | 2 |
| | 6 | 11 | 10 | 27 | 54 |

3) 図書館のどの部屋を使いますか？



4) 2)において、3~5に○を記した学生にお尋ねします。(人)

図書館をあまり利用しない理由がありますか？(複数回答可)

| | 栄1 | 栄2 | 保1 | 保2 | 計 |
|--------------|----|----|----|----|----|
| 1. 利用する時間がない | 10 | 7 | 20 | 3 | 40 |
| 2. 行くのが面倒だ | 2 | 3 | 4 | 4 | 13 |
| 3. 借りたい本がない | 1 | 3 | 3 | 0 | 7 |
| 4. 雰囲気がいやだ | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| 5. 行く理由がない | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| 6. 無回答 | 2 | 0 | 6 | 7 | 15 |
| | 15 | 13 | 34 | 15 | 77 |

4) 利用しない理由

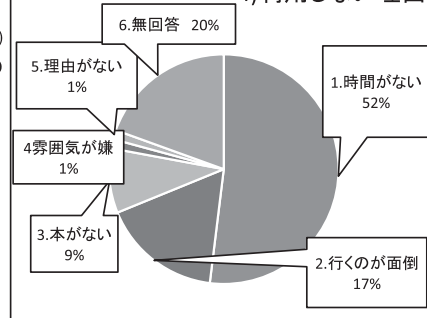


図6-1 平成26年度図書館の利用に関するアンケート(集計結果)

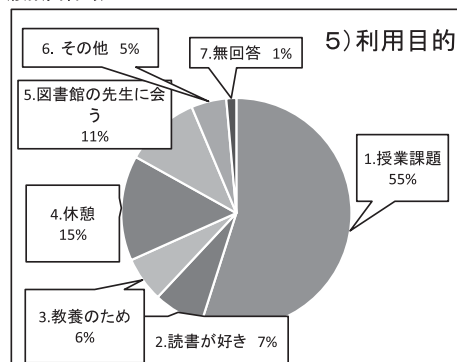
5) あなたは、どのような目的で図書館を利用しますか？ (人) (複数回答可)

| | 栄1 | 栄2 | 保1 | 保2 | 計 |
|---------------|----|----|----|----|-----|
| 1. 授業課題のため | 12 | 14 | 31 | 21 | 78 |
| 2. 読書が好きだから | 1 | 1 | 4 | 4 | 10 |
| 3. 教養を身につける為 | 2 | 0 | 2 | 5 | 9 |
| 4. 休憩 | 5 | 3 | 2 | 11 | 21 |
| 5. 図書館の先生に会う為 | 0 | 1 | 3 | 11 | 15 |
| 6. その他 | 1 | 0 | 1 | 5 | 7 |
| 7. 無回答 | 1 | 1 | | | 2 |
| | 22 | 20 | 43 | 57 | 142 |

(6. その他理由)

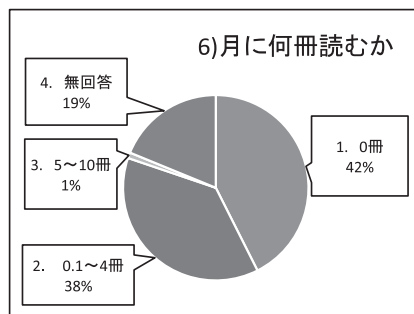
<栄養> ・ 特になし

<保育> ・ レポートに必要な時
 ・ 絵本を借りる為… 2
 ・ 特に行く必要がない
 ・ コピー
 ・ 調べ物をするため



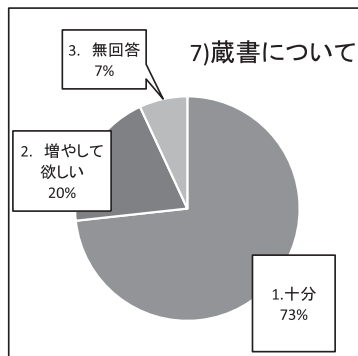
6) あなたは、月に何冊くらい本を読みますか？ (人)

| | 栄1 | 栄2 | 保1 | 保2 | 計 |
|--------------|----|----|----|----|-----|
| 1. 0冊 | 6 | 7 | 17 | 13 | 43 |
| 2. 0.1冊 ~ 4冊 | 7 | 7 | 12 | 12 | 38 |
| 3. 5冊 ~ 10冊 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| 4. 無回答 | 3 | 3 | 8 | 5 | 19 |
| | 16 | 17 | 38 | 30 | 101 |



7) 図書館の蔵書について (人)

| | 栄1 | 栄2 | 保1 | 保2 | 計 |
|------------|----|----|----|----|-----|
| 1. 十分である | 12 | 14 | 32 | 16 | 74 |
| 2. 増やしてほしい | 4 | 2 | 1 | 13 | 20 |
| 3. 無回答 | 0 | 1 | 5 | 1 | 7 |
| | 16 | 17 | 38 | 30 | 101 |



2. と回答した人は、どのような本があったらいいと思いますか？

<栄養> ・ 文字ばかりでなく絵や写真が含まれている解りやすい本

- ・ レシピ本など
- ・ 小説 ・ ノベル ・ マンガ ・ 世界史など

<保育> ・ 絵本や幼児の月刊誌

- ・ 保育実習に関する本 …… 5人
 - ・ 実習記録を書く際に役に立ちそうな本
 - ・ 日誌、設定保育の素材
 - ・ 指導案の書き方 (新しいもの)
- ・ 子供向けの製作の本
- ・ 絵本 …… 3人 (誰かが実習で持って行くとなくなるので、同じ絵本を複数冊)
- ・ 昔話 (花咲かじいさん 等)
- ・ 英語の絵本・洋書
- ・ 紙芝居
- ・ 楽譜 …… 2人
- ・ 心理学 (行動心理学) ・ 文庫本 (心霊、探偵、八雲)

図 6-2 平成 26 年度図書館の利用に関するアンケート (集計結果)

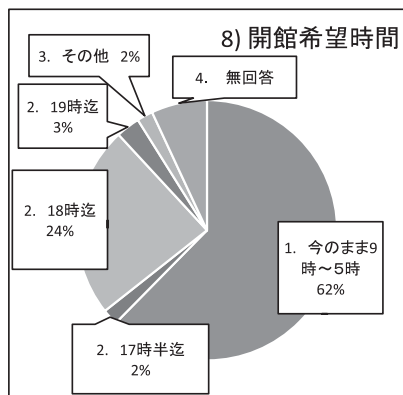
8) 図書館の開館時間（現在は平日9時～17時）について（人）

| | 栄1 | 栄2 | 保1 | 保2 | 計 |
|-----------------|----|----|----|----|-----|
| 1. 今のままで良い | 9 | 13 | 26 | 15 | 63 |
| 2. (17時半迄) 延長希望 | 0 | 0 | 0 | 2 | 2 |
| (18時まで) 延長希望 | 7 | 3 | 6 | 8 | 24 |
| (19時まで) 延長希望 | 0 | 0 | 3 | 0 | 3 |
| 3. その他 | 0 | 0 | 0 | 2 | 2 |
| 4. 無回答 | 0 | 1 | 3 | 3 | 7 |
| | 16 | 17 | 38 | 30 | 101 |

(3. その他)

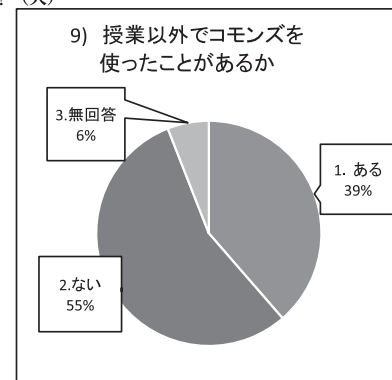
8時～18時 1人

8時30分～18時 1人



9) ラーニング・コモンズを授業以外で使ったことがありますか？（人）

| | 栄1 | 栄2 | 保1 | 保2 | 計 |
|--------|----|----|----|----|-----|
| 1. ある | 7 | 3 | 8 | 21 | 39 |
| 2. ない | 9 | 13 | 28 | 6 | 56 |
| 3. 無回答 | 0 | 1 | 2 | 3 | 6 |
| | 16 | 17 | 38 | 30 | 101 |



10) その他、ご要望・ご意見等があれば、ご記入下さい。

< 栄養1年 > ・前期は行く暇がなかった。時間を延長してほしい。

- ・ 自習室があって、とても勉強しやすいので助かっています。
- ・ もっとクーラーを効かせてほしいです。

< 保育2年 >

- ・ いつもご利用ありがとうございます。
- ・ いつもありがとうございます。相談にものって下さり助かっています。
- ・ 悩み事を聞いてもらえたり、助けられています。
- ・ ぬいぐるみを増やしてください。
- ・ プリンターがあれば助かります。
- ・ いつも楽しい時間を過ごさせてもらっています。
授業の課題でのアドバイスやなかなか相談できない事やグチなどを聞いてもらえてとてもお世話になっています。ありがとうございます。
あと少しの学校生活でもよろしく願います。
- ・ ラーニング・コモンズになり、とても雰囲気が良くなったと思う。
絵本がもっと増えたら嬉しい。特に、実習期間中に読める季節の絵本希望。
プリンターも欲しい。

図6-3 平成26年度図書館の利用に関するアンケート（集計結果）

4・3 アンケート分析・報告

アンケートの集計後、平成26年9月28日に開催した図書委員会で、ラーニング・コモンズ導入前（前回：平成24年度）と導入後約4ヶ月（今回：平成26年8月）におけるアンケート結果の比較を行った。図書委員会による分析結果は以下の通りである。分析結果は、9月度教授会で報告した。

【本学図書館の利用頻度が上昇】

利用頻度に対する回答は「ほとんど利用しない」が17%減少し（前回58%→今回41%）、「ほぼ毎日利用」（前回1%→今回9%）、「月に何度か」（前回25%→今回30%）が増加した。なお「週に1～2回」の利用者は横這いである（前回11%→今回10%）。従って、定期的な利用率が約2割増加したといえる。

【ラーニング・コモンズの利用について】

本学図書館を利用する場合「3）どの部屋を使うか」という質問項目は、平成25年度まで館内に自習空間しかなかったため、前回アンケートにはなかった設問である。今回の回答をみると学生はラーニング・コモンズが78%、自習室16%と答え、来館者の約8割がラーニング・コモンズを使用していることが分かった。ラーニング・コモンズの利用成果は上々といえよう。

【利用目的の変化】

学生の本学図書館利用目的の最多理由は前回アンケートと同様「授業課題のため」であったが、12%減少している（前回67%→今回55%）。なお、「読書が好き」（前回9%→今回7%）、「教養のため」（前回8%→今回6%）という図書資料の利用を目的とした来館理由は横這いである。その代わりに増加しているのが「休憩」（前回6%→今回15%）である。また、前回設けていなかった「図書館の先生に会うため」という理由は11%を占めている。本学図書館の司書によると、図書資料・研究調査とは無関係の「身の上話」や「生活相談」のため定期的に来館する学生も複数存在するという。このように、カウンセリングの目的で来館する学生が存在しており、ラーニング・コモンズの開設を契機に休憩・「安らぎ」を求める来館者が増加したことが明らかとなった。

【今後の対応・利用者促進について】

利用頻度に関して「ほとんど利用しない」と回答した学生への対応を考える必要がある。アンケート結果より1年生、2年生という学年の違いによって利用率に差があることが浮き彫りとなった。「ほとんど利用しない」と答えた1年生は栄養健康学科56%（前回93%：18名中15名→今回56%：16名中9名）、保育学科61%（前回76%：34名中26名→今回61%：38名中23名）であるのに対し、2年生は、栄養健康学科36%（前回55%：20名中11名→今回36%：17名中6名）、保育学科は13%（前回27%：33名中9名→今回13%：30名中4名）であり、1年生の前期は学校施設全般に慣れていないためか本学図書館の利用に消極的であること

が分かった。

また、「4）利用しない理由」について「時間がない」（前回32%→今回52%）、「行くのが面倒」（前回23%→今回17%）、「借りたい本がない」（前回32%→今回9%）以上3つが上位を占め、「時間がない」という学生の増加が著しく半数を占めた。図書館は校舎と渡り廊下でつながれているが老朽化のため取り壊す案もあった。但し、図書館の利用率向上のためには渡り廊下は必要ということが分かった。また、利用率を高めるためには「授業が9時だから少しでも早く開けて欲しい」「時間を延長して欲しい」といった要望にも耳を傾ける必要があろう。

5 おわりに ー今後の課題ー

本稿では、平成26年度、下関短期大学図書館におけるラーニング・コモンズ導入を主眼に報告を行った。図書委員会は本学図書館が従来果たしていた機能を見直し「自習空間」から「多様な学習形態可能空間への転換」を行うため、平成26年4月、「アクティブ・ラーニング、グループ・ワーキング」が可能な場として3階にラーニング・コモンズを導入し、図書館内の空間整備を行った。ラーニング・コモンズの開設により、導入目的である 1) 学習支援・授業との接続、2) 空間整備を通じた利用促進、以上2つは、ある程度達成できたと考えられる。

1) 授業との接続（教員との連携）については、ラーニング・コモンズ導入前後に教員研修会を行い（平成26年3月、6月）、図書館に対する意識向上や利用促進を図った。実際に授業でラーニング・コモンズを使用した回数は、平成26年度4月～11月までに47件の利用があったため、研修会の成果は挙がっているといえよう。今後更なる授業との接続を促進するため、参考図書の配架・備品整備（タブレット端末の購入・貸し出し等）について検討したい。

2) 空間整備を通じた利用促進については、ラーニング・コモンズ導入前後に行った学生に対する「図書館利用に関するアンケート」の結果、図書館の利用頻度が上昇したことが挙げられる（「ほとんど利用しない」が導入前に比べて17%減少）。

このアンケート結果を通じて、学生にとって「グループ・ワーキング」が可能な場としての空間整備は「安らぎを得られる場」（利用目的「休憩」が約10%増加）の提供につながっていることも分かった。よって今後「学習空間整備」だけでなく「滞在型利用」という観点からも図書館の空間整備を考える必要があろう。更にアンケート結果によって、「1年生前期は利用率が低い」という問題点が明らかとなった。1年生の利用促進・学習支援に対しては、授業だけでなく学生間交流の場としてラーニング・コモンズを提供する必要があろう。具体策としては、2年生がTA（Teaching Assistant：学習指導補助・助言）の役割を果たす「レポート書き方講座」や「試験対策講座」などを行うことが考えられる。

巨視的な展望については、「開かれた図書館」としてのニーズを考慮した運営が挙げられる。

今回行った図書館におけるラーニング・コモنز導入は、学校内部の利用促進・学習支援の観点から行った。しかし、下関短期大学図書館は地域住民も利用できる公共性も有している。今後、「開かれた大学図書館」という観点も考慮した図書館運営を目標としたい。

謝辞

施設見学を御許可頂き、図書館活動および学生協働等についてご説明頂きました梅光学院大学図書館ならびに加藤邦彦先生（平成 25 年度梅光学院大学図書館長）に対し、記して謝意を表します。

参考文献

- 1) 法政大学図書館・慶應義塾大学大学院 上田直人・長谷川豊祐：わが国の大学図書館におけるラーニング・コモنزの事例研究，名古屋大学附属図書館研究年報，7号，pp.47-62，2008
- 2) 山内祐平：ラーニングコモنزと学習支援，情報の科学と技術，61（12），社団法人情報科学技術協会，pp.478-482，2011
- 3) 文部科学省 科学技術・学術審議会学術分科会 研究環境基盤部会 学術情報基盤作業部会：大学図書館の整備について（審議のまとめ）—変革する大学にあって求められる大学図書館像 用語解説「ラーニング・コモنز」，文部科学省 研究振興局情報課学術基盤整備室，2010，http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/attach/1301655.htm
- 4) 文部科学省 科学技術・学術審議会 学術情報委員会；学修環境充実のための学術情報基盤の整備について（審議まとめ），2013，http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2013/08/21/1338889_1.pdf
- 5) 平成 25 年度第 99 回全国図書館大会福岡大会実行員会事務局：全国図書館大会福岡大会要綱，pp.29-36，2013